

授業科目	脳神経疾患身体障害支援学特別研究				
担当者	石倉隆・岩田篤			(オムニバス)	
実務経験者の概要					
学科名	保健医療学研究科	学 年	1年～2年	総単位数	10単位
		開講時期	通年	選択・必修	選択

■ 内 容

高度専門職業人として社会で活躍していくための学修（職業実践力）の成果として「修士論文」あるいは「課題研究報告書」の完成を目指す。「修士論文」や「課題研究報告書」は、修士号を得るための一つの過程ではなく、その成果が直接、学生のそれぞれの職域を通じて社会に還元できるもの、つまり、学生が大学院修了後に高度専門職者として現場で活躍するための職業実践力として活用できる成果にする。

(石倉隆 [実務家教員]、岩田篤 [実務家教員])

修士論文：脳神経疾患（成人）による身体障害にかかる研究を通じて、専門領域を深化させ現場に還元でき、職業実践力を向上させる研究成果を目指す。研究課題は、その成果が大学院修了後に現場における生活機能支援に直接還元できるものとする。また「修士論文」は、学生の職域における学術的特色や独創性、貢献度などを求める。例：脳神経疾患により興奮性が低下した大脳皮質に、経頭蓋的に刺激を与えることで、大脳皮質興奮性修飾を試みる。運動関連領域をターゲットとした片麻痺の軽減、補足運動野をターゲットとしたパーキンソン症候群の軽減などの臨床応用を目的に、健常者でその有効性を確認していく。

(石倉隆 [実務家教員]、岩田篤 [実務家教員])

課題研究：脳神経疾患（成人）による身体障害にかかる臨床・臨地の実践から導き出された生活機能支援に有用な介入や活動あるいは臨床・臨地実践の疑問を解決する方法論を科学的根拠に基づき考察し、「課題研究報告書」にまとめる。「課題研究」は、課題テーマに沿った3症例以上を臨床現場で選択して実践介入し、そこから得られた知見を症例報告としてまとめる。3症例の実践経験から得られた知見を統合し、課題テーマを解決する結論へと導き、「課題研究報告書」にまとめる。「課題研究報告書」は、実際に展開された臨床的推論の明確さ、介入等による変化についての論理的・科学的考察、現場に直結する結論などを求める。

■ 到達目標

修士論文

- ・ 専門領域の研究テーマについて文献の適切な収集、必要な実験・調査の的確な方法論構築ができる。
- ・ 研究結果について、論理的思考ができ、その思考を論文にまとめることができる。
- ・ 研究成果について的確にプレゼンテーションできる。
- ・ 研究成果を社会に還元する術を説明できる。

課題研究

- ・ 専門領域の課題テーマについて文献の適切な収集、科学的根拠に基づいた介入実践ができる。
- ・ 介入実践の経過や結果を論理的に考察でき、その思考を報告書にまとめることができる。
- ・ 課題研究の成果についての的確にプレゼンテーションできる。
- ・ 課題研究の成果を社会に還元する術を説明できる。

■ 授業計画

修士論文

- 第1回～第15回 研究遂行に必要な研究方法論と研究倫理を指導する
 研究テーマの関連文献収集と整理および取り扱う分野における最新情報把握
 関連文献や先行知見をもとに、指導教員 [実務家教員] と討論しながら研究デザインを考え、研究計画書原案を作成する
 (実務家教員や実務家による授業)

- 第16回～第30回 指導教員〔実務家教員〕と討論を繰り返し、研究計画書を作成する
研究計画書に基づき予備実験や予備調査を実施して研究計画の妥当性を検討、研究計画書を完成させる
完成させた研究計画書を研究科委員会へ提出し、必要に応じ研究倫理委員会の審査を受ける
(実務家教員や実務家による授業)
- 第31回～第45回 研究計画書に基づき実験、調査または臨床試験を実施してデータを収集する
収集したデータを指導教員〔実務家教員〕と討論しながら解析して論理的な解釈を行う
この間、所属施設における実験を実施する研究では、適宜、所属施設の実務家（所属施設監督者）の助言・指導を受ける。
(実務家教員や実務家による授業)
- 第46回～第60回 中間発表を行って複数の教員〔実務家教員を含む〕や研究者、実務家（山口、三石）から意見を聞き〔グループディスカッション〕、軌道修正する
軌道修正を行いながら、実験、調査、臨床試験を実施してデータ収集を継続する
収集したデータを指導教員〔実務家教員〕と討論しながら解析して論理的な解釈を行い、論文を執筆する
(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業) (実務家教員や実務家による授業)
- 第61回～第75回 指導教員〔実務家教員〕の指導の下、論文執筆とともに、追加実験、再分析、文献再収集等、必要な対策を実施する
論文を完成させて提出し、審査による最終評価を受ける
(実務家教員や実務家による授業)
- 課題研究
- 第1回～第15回 課題テーマの関連文献収集と整理および取り扱う分野における最新情報把握
関連文献や先行知見をもとに、指導教員〔実務家教員〕と討論しながら臨床・臨地活動の方法も含めて課題研究計画書原案を作成する
(実務家教員や実務家による授業)
- 第16回～第30回 指導教員〔実務家教員〕と討論を繰り返し、課題研究計画書を作成する
課題研究計画の臨床・臨地活動との整合性を検討、課題研究計画書を完成させる
完成させた課題研究計画書を研究科委員会へ提出する
課題研究計画書の承認後、設定した課題テーマの最新知見をさらに追加し、課題解決の基礎となる知識を涵養する
随時、臨床・隣地現場での実践を開始する
(実地での体験活動を伴う授業)
(企業等と連携して行う授業)
(実務家教員や実務家による授業)
- 第31回～第45回 臨床・臨地現場における実践を積極的に実施し、課題テーマの考察を深める
この間、指導教員〔実務家教員〕とと討論するとともに、適宜、所属施設の実務家（協力施設監督者）の助言・指導を受ける。
臨床・臨地活動の成果として課題研究の基盤となる3例以上の症例報告をまとめる
(実地での体験活動を伴う授業)
(企業等と連携して行う授業)
(実務家教員や実務家による授業)

- 第46回～第60回 中間発表を行って複数の教員〔実務家教員を含む〕や実務家（山口、三石）から意見を聞き〔グループディスカッション〕、軌道修正する
軌道修正を行いながら、臨床・臨地活動を実施して課題テーマの考察を継続する
指導教員〔実務家教員〕の指導の下、3例以上の症例報告をもとに考察した課題テーマを整理し、論理的な解釈を行い、報告書を執筆する
(双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業)
(実地での体験活動を伴う授業)
(企業等と連携して行う授業)
(実務家教員や実務家による授業)
- 第61回～第75回 指導教員〔実務家教員〕の指導の下、必要に応じ臨床・臨地活動を継続して、現場に還元する知識・技能を整理、報告書を完成させて提出し、審査による最終評価を受ける
(実地での体験活動を伴う授業)
(企業等と連携して行う授業)
(実務家教員や実務家による授業)

■ 評価方法

修士論文：研究過程と修士論文の内容を総合的に勘案して評価する。

課題研究：3例以上の症例報告書および課題研究報告書の内容によって評価する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

（修士論文）

研究計画書の作成、それに伴う文献検索と考察、実験のシミュレーション、修論作成など、多くの時間が自学に費やされる。学修内容などは、適宜、指示する。

（課題研究）

日々の臨床活動が課題研究に直結する。その中で生じた疑問を文献的に考察したり、研究計画書に則ってデータを収集したりと、多くの時間が自学に費やされる。学修内容は、適宜、指示する。

■ 教科書

書名：不要

■ 参考図書

書名：別途、紹介する。

■ 留意事項

特別研究は、修士論文も課題研究も厳正な審査で受理された研究計画書（課題研究計画書）に則って実施する。研究不正行為が絶対にならないように留意すること。研究不正行為については、十分に指導するとともに、その行為が発覚した場合には厳しく罰する。

■ 講義受講にあたって

高度専門職業人として成長するための脳神経疾患身体障害支援学特論、特論演習を十分に理解し、自身の研究と関係する知識・技術を十分に修得しておく必要から、これらの学修を並行して実施すること。